

国際交流ラウンジの業務を通して

多文化共生をどう実現するか？

－横浜市鶴見区での活動事例から－

話題提供者:松井孝浩氏 (横浜市国際交流協会鶴見国際交流ラウンジ館長)

日時: 2016年10月28日(金) 18:00-19:45

会場: 早稲田大学早稲田キャンパス 22号館 615教室

参加費: 無料

予約: 不要(当日、直接会場にお越しください。)

お問い合わせ: monthly@alce.jp (月例会委員会事務局)

日本語教師をしていた私は今年の5月に横浜市鶴見区にある国際交流ラウンジの運営責任者として着任しました。そして今、国際交流ラウンジの業務を通して多文化共生をどのように実現していくかについて試行錯誤を繰り返しています。

そこで日本語教師という立場から捉える多文化共生と、国際交流ラウンジの運営責任者としての立場から捉える多文化共生は異なることに気づきました。後者の立場から降りかかる多文化共生をめぐる問題群(人権、就労、就学・進学、家庭などの諸問題)は、切実で生々しく、時には自分自身の人生や生活にも厳しく突き刺さります。

それは、「教室で教師として学習者に接する」という一種の「舞台装置」から離れ(あるいは引きはがされ)、様々な問題に直接接していかざるを得ないという状況に由来するものかもしれません。

国際交流ラウンジでも地域の日本語教室が運営されています。元日本語教師として感じることもあるのですが、それに加えて国際交流ラウンジの運営責任者として新たに感じることもあり、それはやはり元日本語教師の私とはまた違った感覚です。地域の日本語教室は多文化共生をめぐる問題群(人権、就労、就学・進学、家庭などの諸問題)にどのようにアプローチできるのか、また、それはどのような学習活動によって実現できるのか？

その中で、どのように地域の日本語教室を捉え、その先にある多文化共生をどのように具体的に実現していくのか？あるいは、個々の現場で日本語教師は日々の実践を通してどのように多文化共生を実現していけるのか？

会場のみなさんと考えていきたいと思います。